

日本遺産 「薩摩の武士が生きた町」 シンポジウム

令和元年5月20日、鹿児島県が県内9市（鹿児島市、出水市、垂水市、薩摩川内市、いちき串木野市、南さつま市、志布志市、南九州市、姶良市）と共同で申請した「薩摩の武士が生きた町～武家屋敷群「麓」を歩く～」が文化庁より「日本遺産（JapanHeritage）」に認定されました。

日本遺産とは令和2年度の東京オリンピック・パラリンピックに合わせて、海外からの観光客を各地域に呼び込む受け皿として、文化庁が観光庁などと連携して平成27年度から認定しているもので、地域で育まれてきた文化や受け継がれてきた文化財を、それぞれのストーリーとともに発信するものです。

今回は日本遺産登録後初のシンポジウムになります。ぜひお気軽にご参加ください。

日時 令和元年 **11月23日** (土)

13:30～16:30

会場 ホテルウエルビューかごしま

(〒890-0062 鹿児島市与次郎2-4-25)

※駐車場に限りがあるため、できるだけ公共交通機関をご利用ください。



参加費
無料

定員 450名

実施概要

① 日本遺産「薩摩の武士が生きた町」とは
鹿児島県教育庁文化財課

② 基調講演「鹿児島島の武家屋敷群の魅力」
講師 土田充義 先生（鹿児島大学名誉教授）



土田充義先生

③ シンポジウム「武家屋敷群「麓」での取り組み、これまでとこれから」

登壇者 中村和美氏（鹿児島市地域プロデューサー / 喜入旧藩自治会役員 / 鹿児島県立埋蔵文化財センター勤務）

福元拓郎氏（南さつま市地域プロデューサー / 加世田いにしへガイド会長）

長坂正雄氏（薩摩川内市地域プロデューサー / 入来麓伝統的建造物群保存地区保存会会長）

丸野博和氏（姶良市地域プロデューサー / NPO法人Lab蒲生郷副理事長）

土田充義先生

コーディネーター 東川隆太郎（かごしま探検の会）

「薩摩の武士が生きた町～武家屋敷群「麓」を歩く～」ストーリーの概要

勇猛果敢な薩摩の武士を育んだ地、鹿児島。そこには本城の鶴丸城跡や、県内各地の山城跡の周辺に配置された「麓」と呼ばれる外城（とじょう）の武家屋敷群が数多く残っています。

麓は防御に適した場所に作られ、門と玄関の間に生垣を配置する等、まるで城の中のように敵に備えた構造を持っていました。そこでは武士達が、心身を鍛え、農耕に従事し、平和な世にありながら武芸の鍛錬に励みました。

本城の鶴丸城跡や外城の武家屋敷群を歩けば、薩摩の武士達の往事の生き様が見えてきます。

申込方法：メールまたはFAXでお申込みください【定員に達し次第締め切り】

問い合わせ先

シンポジウム事務局NPO法人かごしま探検の会 TEL:099-227-5343 FAX:099-295-3133

〒892-0821 鹿児島市名山町3番9号 E-mail: samurai@tankennokai.com

主催：日本遺産「薩摩の武士が生きた町」魅力発信推進協議会